

最上武雄・福田秀夫共編

## 現場技術者のための土質工学

土質工学は、基礎となる土質力学の学理を実際の土構造物や基礎の設計に応用するための学問であると解される。したがって、何よりも実際工事への適用性という点が重視されねばならないであろう。

土や基礎に関する工事現場においては、技術者は過去の経験にとらわれやすく、手近により解決策があるにもかかわらず、無知のため見逃してしまう例も少なくない。また逆に現場の体験が土質工学に十分フィードバックされず、この分野の学術の進歩を促進する動機をみすみす失なうようなことも多いのである。

本書はこのような意味で、現場技術者と土質工学との直結をねらったものであって、内容は I. 土質工学の基礎 (7章)、II. 土質調査法 (6章)、III. 基礎工 (3章)、IV. 盛土工 (4章)、V. 地盤改良工法 (12章) の五編からなる。第 I 編では難解な理論展開は他の土質力学書にゆずり、単に現象説明に必要な項目のみについて重点的な解説を与えるとともに、土に関するノモグラムなど多くの図表を掲げて利用の便宜をはかっている。しかし総ページの約 1/4 にあたる 100 ページ余をこの編にあてているのをみても、土質工学の基礎となる学理の適確な把握が、いかに重視されるべきかという基本姿勢を読みとることができる。

第 II 編以下は土質工学の各編ともいべき諸編であるが、本書の真価はここにおいて十分発揮されているといえよう。各項目の執筆者は現場の豊富な資料にもとづいて縦横に解説を行ない、実測例や計算例をふんだんに盛り込んで問題の所在を明らかにしている。読者はこのようなケーススタディを通じて自己の持つ疑問や課題に何らかの共通点を見出し、その解決への手がかりを得る機会をもつであろう。中でも第 IV 編に含まれている工事施工計画や土工配分計画の例は、土質工学が単に設計と施工に関する学問だけでなく、それに先立つ計画や積算によって裏打ちされたものでなければならない点を教えている。

ただ一言注文をつけるならば、本書で使われている土質工学に関する述語の文字や記号の中には、必ずしも土質工学会制定の土質工学用語によっていないものもあるので、改版にさいしてはこの点を修正されることが望ましい。

[A]

鹿島出版会刊, B5判・410 ページ, 定価 2500 円

F. スチュアート チェピン ジュニア著

佐々波秀彦・三輪雅久共訳

## 都市の土地利用計画

近年、わが国においても、都市・地域問題の解決のため、より合理的で、より効果的な土地利用計画の必要性が盛んに説かれている。しかし、ますます深刻の度を加えつつある都市・地域問題に対処するためには、計画理論に基づいたより総合的科学的アプローチをとらなければならないことが次第に識者間に理解されるに至っている。

本書はアメリカのノースカロライナ大学のチェピン教授によってまとめられた労作で、主として、ここ 7, 8 年にアメリカで発表された数百種にのぼるこの分野の文献を参考として、土地利用計画についての新しい考え方を探究したものであり、都市における土地利用計画理論を本格的に追求した最初の本として高く評価されているものである。本書の内容は三部に分れている。第 I 部は土地開発の理論的基礎を検討し、さらに第 II 部、第 III 部における方法論的アプローチの概念的な構成を紹介している。第 II 部は近代的な都市の土地利用計画の「手法」を扱っている。ここでは経済分析、雇用予測、人口分析、都市活動組織と居住者の行動・態度の検討、および土地利用調査、空閑地分析、都市再開発といった都市環境の基本的問題を論じている。第 III 部は土地利用手法そのものを取り扱っており、土地利用プランの開発手法等、プランを決定するまでに考慮すべき種々の方式の評価を行なっている。また、最後に、土地利用計画の技術的な面と公共的政策的な面との関連について、特に述べている。

本書は比較的読みやすく、未熟な点も多いが、この種の本の中では非常な力作である。現在アメリカの大学院の都市計画関係学科で教科書または参考書となっており、わが国でこの種の良書にかけている点を考えると、特に都市・地域計画にたずさわる人にとって有益な本であると思う。

[N]

鹿島出版会刊, B5判・387 ページ, 定価 3200 円